

野菜博士になろう

目 標

- ・野菜がどのようにできるのかを調べたり、実際に栽培したりすることで、問題解決力を高めるとともに「食」に対する関心を高め、食べ物を大切に作る心を育てる。
- ・農業体験を通して自分たちと自然の恵みやそこで働く人々の関わりを考える。

育てたい力

- 野菜を栽培する過程で起こる様々な問題を解決する力。
- 野菜の栽培過程を記録にまとめたり、栄養について調べたことをまとめたりして、自分なりの考えをもって表現する力。

主な学習活動（総合的な学習の時間：30 時間）

野菜作り

（5 月）

- ・トウモロコシ、トマト、キュウリ、ジャガイモ、キャベツの五つのグループに分けて、それぞれ種や苗を教材園に植えた。グループとは別に学年全体で大豆の種を蒔いた。野菜の種を初めて見た児童も多かったが、意欲的に取り組んでいた。芽が出ると定期的に観察した。

農業体験

（7 月）

- ・「野菜(大豆)博士になろう」の取組の一つとして、栽培の仕方を学び、大豆を育てるためのヒントを学ぶため、さっぽろっこ農業体験事業に参加した。当日は、イチゴのランナー切りやサクランボの葉の選定作業、イチゴの育て方や農園の 1 年の話を通して、生産者の方々の大変な苦勞と農業の大切さについて身をもって知ることができた。



収穫・新聞づくり

（8～10 月）

- ・トマト、キュウリ、ジャガイモ、トウモロコシ、大豆、キャベツの順で収穫することができた。トウモロコシを収穫間近にカラスに食べられるアクシデントもあったが、どの野菜も美味しく食べることができた。また収穫後、教材園での野菜づくりと農業体験を新聞にまとめた。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「初めはうまく育たなくて大変だったけど、美味しい野菜が収穫できたので、楽しかった。」「野菜を育てるのは簡単だと思っていたけど、思っていたよりも難しかったです。」「定山溪ファームに行って、農家の人はとても苦勞しているから、美味しい果物が食べられることが分かった。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

日頃野菜に興味のない子どもも、自分で育てることでどのように育っていくのかを実感することができた。また、思い通りに育たない野菜もあったので、どうすれば育っていくのか考える中で、問題解決能力を養うことができた。また農業体験を通して、農業の大切さと生産者の方々の苦勞を知ることができた。

体験先、関係機関

定山溪ファーム（札幌市）